●◆しゃばのしがらみを、仏の願いの中でいただこう◆●

仏の願い

平成 28 年 西雲寺だより 初夏号（46 号）

3 月 21 日　世話方集会開催

桜の花が舞い散る四月十四日、熊本地方を二度にわたって震度七の地震が襲った。五年前の東北の大震災が思い起こされる「想定外」の出来事であった。

想定外とは人間理性の科学の限界を示すことばである。

美しく、やさしい自然も一旦牙をむくと人間の力の及ばないものとなる。

所詮一人一人の人生も想定外である。

一人一人、分別や思いでは推し量れない重い宿業因縁を引き受けて生きていかなければならないのである。（住職）

熊本地震救援金のお願い（３面）

西雲寺　役員交代

就任のご挨拶

筆頭総代
末定　育雄

新緑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は、西雲寺のために何かとお世話になり誠に有難うございます。

さて、この度お寺の事に大変ご尽力されてこられました吉川筆頭総代が退任されることになり、三月の世話役会で後任に推挙されました。武周町の地元でない私がお引受することは難しいことと存じましたが、是非ともとのことで、皆様のご協力のもと務めさせていただく事になりました。

今年の四月に熊本地震がおこりましたが、被災された皆様の様子を見ますと、こんな時こそ親鸞聖人のお教えや念仏が人の心を救うのではないかと思いました。

今後もお寺が、皆様の信心のより所として、又、次世代に念仏相続できますよう護持丹精致したく存じますので、皆様のご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせて頂きます。

退任のご挨拶

七五〇回大遠忌執行
内陣修復円成
前筆頭総代
吉川　芳弘

三月の世話方集会で、筆頭総代を退任することとなりました。五年間、皆様には何かとご協力を頂き有難うございました。

特に二年前、西雲寺の親鸞聖人七五〇回大遠忌に際しましては、たくさんの方に積み立てや寄付にご協力を頂きました。お陰様でお金を借りずに内陣の修復ができ、御遠忌も三年前倒しで迎えることができました。当日は晴天に恵まれ、皆様に一人一役を受け持って頂きながら、盛大に執り行うことができました。

最近は宗教離れと言われています。当寺でも負担金を納入頂く家庭が毎年減っています。お子さんやお孫さんに念仏を相続して頂くと共に、寺（本山含む）の維持のこともぜひお伝えください。

良寛さんは「欲無ければ一切足り、求むる有れば万事窮す」（人の欲望には限りが無い。身に備わっただけの満足と有難さを自覚し幸福な自分を発見する）と書いておられます。私たちも、お陰様と言って喜べる日暮らしを、感謝しながら送りたいものです。

最後に皆様のご健勝を念じ申し上げます。

誠に有難うございました。

新役員（敬称略）

総代　末定育雄(筆頭)（安田町）
　　吉川芳弘（大島町・武周出身）
　　横山　忍（本堂町）
　　高橋文男（新下江守・武周出身）
会計　高橋　諭（武周町）

旧役員（敬称略）

総代　吉川芳弘(筆頭)（大島町・武周出身）
　　末定育雄（安田町）
　　高橋秀隆（武周町）退任
会計　高橋　諭（武周町）

新体制のもと
引き続き寺門一丸となって
念仏の教えを聞いていきましょう

これまでのご尽力に
心より感謝いたします
ありがとうございました

熊　本　地　震

④益城町に立地している阿弥陀寺の被災状況

下の地図の④は、震源となった断層のすぐそばに立地する阿弥陀寺といいます。若い住職さんとは本山で一緒に勉強した仲で、１年前に西雲寺へお説教に来て頂きました。

本堂は新築したばかりでほぼ無傷でしたが、住宅がひどい状況だそうです。本堂でも寝泊まりできそうでしたが、２週間は恐怖心から屋根の下で眠れなかったといいます。

亡くなったお同行はおられないものの、周囲の約 25 軒中 20 軒は全壊もしくは半壊したそうです。水は 26 日にやっと通り始めたものの、トイレに困る状況は続いており、善意のボランティアも入りにくいようです。

道路状況も復旧には遠く、個人宛の郵便物や小包は５月中旬頃まで自粛するよう通達されています。

よろしくお願いいたします

救援金のお願い

西雲寺として本山佛光寺に提出し、本山を通して被災したお寺やお同行に直接お渡しいたします。

金額　１口　1,000 円
　　（何口でも結構です）
期限　H28 年 5 月 31 日
主管　本山佛光寺

在所の方は、西雲寺や世話方さんまで手渡しくださっても結構です。

口座振込のご案内

（振込手数料がかかります）

福井市農業協同組合（やしろ） 社 支店
店舗番号 6785-018
口座番号 0000337(普通)
振込先　真宗佛光寺派（しんしゅうぶっこうじは）
西雲寺（さいうんじ） 代表（だいひょう） 高橋 諭（たかはしさとし）

ゆうちょ銀行口座をお持ちで
ATM で振り込まれる場合
手数料が無料になります

ゆうちょ銀行
記号　13320
番号　5351911
会計の高橋 諭（たかはしさとし） 氏の名義です

釈尊の生涯とその教え②

若き日のお釈迦さま

王宮での生活

一国の王子として、周囲の人々の喜びと願いを一身に受けて、人生を歩み出したお釈迦さまは「ゴータマ・シッダールタ」と名づけられた。「ゴータマ」とはインドでは神聖な動物とされる牛にちなんだ名であり、「シッダールタ」とは「目的が成就された者」という意味です。ルンビニーに誕生したこの王子には人生の出発と同時に、両親や多くの人々の喜びと願いがかけられていたのです。ところがシッダールタは生後わずか七日にして母摩耶夫人と死別してしまわれた。この母との死別は、幼いシッダールタの心に深い陰をおとし、このことが後の出家ということに関係してくるのです。その後母の妹に当る叔母の細やかな愛情のもとに養育され、釈迦族の都、カピラ城でその若き日を過ごしていったのです。

当時のインドにおいては、王族は一般教養としてあらゆる学問、武芸を身につけなければなりませんでした。お釈迦さまも幼い頃からさまざまな学問に励み、優れた才能を発揮したと伝えられています。周囲の人々の期待や愛情に支えられた王宮での生活は大変恵まれたものであった。私たちの一般的な感覚からすれば何一つ不自由がないと思われる王宮での生活ではあったが、シッダールタはそのなかでしばしば思い悩み、ふさぎ込んだといわれる。父王はそれを非常に心配し、シッダールタのそんな様子を見るたびに、その憂いを晴らそうと、さらにさまざまな娯楽や贅沢な生活を用意したといわれる。仏伝には次のように記されている。

比丘たちよ、私はまことに細やかな心遣いをもって大切に育てられた。比丘たちよ、私の父の邸には蓮池が造られ、その一面に青い蓮や、紅い蓮や、白い蓮が植えられていたが、それはもっぱら私を喜ばせるためであった。私が身につけるものは何でもすべてカーシー産の最上のものを使っていた。私が少しでも気分を害することがないように、私の周りには昼も夜もお供の者が従い、決して一人になることはなかった。比丘たちよ、私には三つの宮殿が与えられていた。一つは冬のため、一つは夏のため、一つは雨期のためであった。そして雨期の間、私は音楽を奏で舞い踊る女性たちに取り巻かれて、決して宮殿から外へ下り立つことがなかった。

樹下静観（じゅげせいかん）

しかしそれでもシッダールタの憂いや悩みは晴れることはなかった。物質的な娯楽や贅沢では決して満たされることのない悩み、シッダールタの心を捉えて離さなかった問題とは一体どのようなものだったのだろうか。仏伝はそのことに関して「樹下静観」と「四門出遊」という二つの出来事を伝えている。

お釈迦さま（シッダールタ）はあまり宮殿の中に閉じこもってばかりいてはいけないということで、農耕祭というお百姓たちのお祭りを見学に行かれたのです。その帰り道お疲れになって、大きな樹の木陰に腰を下ろして休んでおられました。辺りの景色を眺めていると、ちょっと離れたところで、お百姓さんが畑を耕しているのが目に入りました。何げなくそのお百姓さんが鍬を振り下ろすその鍬の先を見ていたら、土の中から一匹の虫が掘り出されてきました。その瞬間に一羽の鳥が飛んできて、パッとその虫をくわえて飛び立ったのです。何ということが起ったのだと思って見ていると、その次の瞬間、大きな鳥が飛んできて、その虫をくわえた鳥を鷲づかみにして飛び去った。その様子を目の当たりにしたお釈迦さまは、生き物が生きるということは何とむごいことなのか、生きるということは、必ず他のいのちを奪わなければいけない、何と罪深いことなのかと思われたということです。

これをどう考えたらいいのか、お互い皆、生きたいわけです。虫は精一杯生きたかったはずです。小さな鳥は何か食べ物がないと生きていけないわけです。ひょっとするとどこかに巣があって、お腹をすかしている雛がちが待っているかも知れません。そして後から来た大きな鳥も何か食べないと生きていけません。この鳥もひょっとしたらどこかに巣があって、お腹をすかしている雛が待っているかも知れません。お百姓さんにしても、虫を掘り起こすつもりはなかったけれども、畑を耕さないことには、

自分の命をつなぐことができない、自分の家族を養うことができないわけです。すべてのいのちあるものが精一杯生きようとすることが、必ず他の命を奪わなければ生きられないということです。これは生の矛盾です。生は必ず死によって成り立つのです。そういう不合理をどう考えたらよいのか、お釈迦さまは悩まれたのです。そういうことがお釈迦さまの出家につながった原因だと伝えているのです。

四門出遊（しもんしゅつゆう）

ある時、父王は王子（シッダールタ）に「城外に遊びに行ってはどうか」と告げた。王子は長い間、宮殿の奥にいて、城外へ遊びに行ったことがなかったので願いがかなったとよろこばれた。そこで王は「王子がこれから外出するので道路沿いをきれいに片付け、水を打って掃除をし、香をたけ、道々には幌をかけて清潔にするように」と国中に命令を出されました。王子はたくさんの騎兵に護られて、初めて東の城門から出られた。そうしたらそこで意外なものを見てしまった。今まで見たことのないものを見てしまった。何を見たかというと、老人がうずくまっていたのです。宮殿の中では老いさらばえた老人なんて見ることはできません。若々しい軍人とか、若くて美しい女性はたくさんいますが、老いさらばえた老人なんていません。王子は老人なんて初めて見ましたから、お伴の人に「あれは何だ」と尋ねたのです。「あれは老人です」と「なぜあの人はあんなになっているのか」「あの人も以前は私たちと同じように若かったけれども何年かたつうちにあのように年を取ったのです。」と教えられた。「私もあのようになるのだろうか」と尋ねたら、「生きていれば必ず年を取ります」といわれた。それで王子はものすごいショックを受けて、急いで宮殿に引き返したというのです。

何ヶ月かが過ぎて、今度は南の城門から出られました。そうしたらまた意外なものを見てしまったのです。何を見たかというと病人を見てしまったのです。青白い顔をした病人が横たわっていた。「あれは何だ」と聞いたら「病人です。もうすぐ亡くなるのです」と「私もあのようになるのだろうか」「生きていたら病気になるかも知れません」と教えられて驚いて宮殿に引き返されたということです。

カピラ城　城門跡

また何ヶ月かして、次は西の城門から出られました。そうしたらまた意外なものを見てしまった。とんでもないものを見てしまったのです。死人を見たのです。人がここで亡くなっていたのです。今まで目にした人たちも驚くべき姿だったけれども、今度はビクとも動かない人が横たわっていたのです。「あれは何だ」と尋ねると「亡くなった人です」「「私もあのようになるのだろうか」と尋ねると、「いづれは死ぬのではないでしょうか」といわれて驚いて宮殿へ引き返した。

王子は何ヶ月かして少し心の傷が癒えたので外出しようと思った。乗り物を用意して、北の城門から出たところ、ここでまた意外なものを見てしまったのです。一人の出家者、沙門が向こうから歩いてきたのです。身なりは貧しくてお粗末だけれども、その人の顔を見ると、目が輝いていた。あの人もやがては年をとり、病気になり、死ぬに決まっている。それにもかかわらず、あの人はどうしてあんなに生き生きと輝いて生きられるのだろうか「これは一体どのような人なのだ」と尋ねると「これは出家し修行している人で沙門と呼ばれます」「沙門とはどのような人なのか」と更に尋ねると「沙門は道を求めて家や妻子を捨て、愛欲や名誉を捨て去って、ひたすら戒律を守るのみです。そして純粋なこころを得て、さまざまな憂いや苦しみから逃れ、自由自在に生きている人です」と答えた。王子は「素晴らしい。これこそ本物だ」といわれたという。

お釈迦さまが最後に出会った沙門とは、私たちが目を背けたい老い、病み、死ぬいのちの事実を直視して、真に生きる道を、勇気を持って歩み出した者の姿である。限りあるいのちを生きる人間にとって、一体何が本当の豊かさであり、本当の幸福であるのか、お釈迦さま（シッダールタ）自らもまた真実の道を求めて出家して沙門となることに深い憧れを懐いてお城へ帰られたのであった。

（住職）

御本山御正忌に参拝して

安田町　末定育雄

去る十一月二十七日、御本山御正忌報恩講における福井教区の団体参拝に参加しました。西雲寺門徒の皆様と朝まだ暗い中、バスにて京都に向かいますと、北陸の鉛色の空と違い、青空が広がって清々しい気分になりました。

まずは、東山の本廟にて皆様と一緒にお勤めをして、黄色いいちょうが美しい本山佛光寺には、予定通り到着し、白書院にて昼食の後、午後二時より大師堂にてお逮夜が始まりました。その折、西雲寺住職が、ご登壇のお役目をされました。また、若様もお内陣で住職のお隣に座られ、お二人ご一緒に勤められました。ご立派なお姿を拝見して感慨深く、私もあらためて、西雲寺の檀家であることに誇りに思い嬉しい気持ちでした。

その後、厳かにご門主様によるご親教が述べられ、布教(復演)は、前宗務総長の大谷義博師が勤められました。

御正忌参拝のご縁をいただけたことは、大変ありがたい事で、今後も本山にもお参りをして仏法のお教えをたずね、お念仏を申していきたいと思いました。

年間に仏法聴聞する機会が、西雲寺へのお年頭参り、六月の本山差し向け布教、七月の永代経、門徒研修会、十月の檀家の報恩講、そして西雲寺の報恩講と多くあります。又、町内で毎月行われるお講様など、このようなご縁を大切にして、自分と向き合う心を大事にしていきたいと思います。そして、また若い者達にもお念仏を相続していきたいと思います。

畠中町　宮腰キヨ子

昨年の秋、佛光寺へ日帰りでお参りさせていただきましたネ。あまりに有難かったので嬉しかったネ。

朝出掛ける時、心配でたまらなかったけれど、皆さんのいきいきしたのを見ましたら、

「あぁ、連れて来ていただいた。皆さんのお顔を見られるのやな。」

「元気を出して頑張れば、親達に逢えるのやな…」

と、うれしかったです。久しぶりに佛光寺本廟にお参りができました。

やれやれ、おいしいお昼ごはん。広い広いところで、上品なお弁当をいただき、とても楽しく嬉しかったです。

佛光寺本山にお参りしますと、住職が出てこられ、一番前でおつとめをされたので、大変やねと思いました。でも、大きなお声で頑張っておられたので大丈夫と思い、安心しました。

今度は、一寸お年寄りのお方が出てお話をしてくれました。街のお人だろうと思っていましたのに、私達に合った姑さんやお嫁さんのお話でした。苦労をしてきたのを見ておられたように、何か若いときの事を思い出して涙が出てきました。

帰りの車の中でも苦しかった事を思い出し、涙が出て困りました。でもお姉さまにビールやおつまみも頂き、我に返って、とてもたのしいお参りでした。

また、今年もお願いします。

ありがとうございました。

寄　稿

国見町　本田すみゑ

祖父が昭和五十九年に亡くなって以来、主人と二人でお寺参りが始まりました。私は敗戦の苦しい時に、朝夕お勤めする両親の姿を見てきました。嫁いでからは、主人のため、家のため、子供のためと、無我夢中でした。

今、思い出すのは、新潟のお寺さんが、「おじいちゃんおばあちゃん、亡くなる時、若い者に何と言って死ぬか？」そのような事、考えもしなかった。困った。しかし、お寺さんが、「安心させて死ぬことが大事」と教えて下さいました。

また、時代は変わり、葬儀も簡素化されて来ました。でも、一生涯働いて来た主人はきちっと送ってやりたいと、心の迷っていた私は一生懸命に勤めました。

主人は、九年間の病の生活の内、五年間は車いすでした。いつも待っているだろうと思うと、三十分かけての道、苦にもならず通いました。主人との会話は一方的でしたが、話がある時は笑顔で首を振ってくれました。亡くなるまで笑顔で過ごしたと思います。熱を出し、たんが出て、食事が通らなくなっても、私も高齢になり泊まることはできませんでした。明日も生きていられるように、願うばかりでした。

主人より三つ年下、脳梗塞で車いすで毎日ぬり絵をする人、おくさんが来たのに帰れ帰れといって「うちわ」で顔を隠すのです。その姿を見て、主人がこうなるかもしれないと思ったら、恐ろしい気持ちでした。介護の方たちがしている姿を見ると、泣かないように、怒らないように、楽しい日々を迎えるように、私はただありがとうと、頭が下がるだけでした。

南無阿弥陀仏

日光　横山小夜子

人間は法にあわなかったら何の為に生まれてきたのか分からない。お念仏は我が身にあう心をとどめてしっかり聴くことが大事です。生まれ難い人間に生まれさせて頂いた事本当に感謝しました。我が身の力は一つもありません。三悪道から離れられない私です。法蔵様のお呼び声で目を覚ますことができました。

お念仏は命の問題。法蔵様のお下げの念仏

「本願力にあいぬれば　空しく過ぐる人ぞなき」

法蔵様のお徳を廻して下さる。

念仏は命の話。法蔵様の願心をよく聴く。命の話に目覚めさせてもらって、お念仏の世界を今ここで頂く事ができました。

無始以来からの性根は一度や二度や三度、又一生かけても直らないかも知れない私です。法蔵様これはお六字で助けてやらねばならぬ。私の作った大きな罪をかづいて下さる。何て有難いのでしょう。この時気づかせて貰ったのが、お念仏でした。法蔵様のお呼び声に気がついたのが本当に有難かったです。法蔵様のお徳の偉大さにただただ頭が下がりました。今日迄苦労をかけた事を謝ることもできました。

もう御恩返しはお下げのお念仏より何もありません。

私も年寄り。もうお念仏より外は何もありません。

南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏

仏の願い。私のような極重悪人を入れて一人残らずお浄土へ返したい。何て有難いのでしょうか。

真宗佛光寺派　福井教区

門徒研修会のご案内

県内の佛光寺派門徒が一堂に会して、人生の大事な問題を聞かせて頂く機会です。どなたでも参加できますので、お誘い合わせてお申し込みください。

日時　平成二十八年七月三日（日）　十時～三時

場所　越前市北府（きたご）　光善寺

講師　駒沢勝師（岡山県）

会費　千円（昼食代です）

交通　福武線北府駅の目の前です
駐車は誘導に従ってください

お申し込みは西雲寺までお電話ください
（０７７６　９７　２１３８）
在所の方は世話方さんを通じていただいても結構です。

講師プロフィール
昭和十七年広島県三次市に生まれる。昭和四十三年岡山大学医学部卒業。昭和四十八年～四十九年科学技術庁長期在外研究員としてアメリカ・ニューヨーク州立大学小児科に留学。昭和五十五年国立岡山病院小児医療センター医長。平成三年こまざわ小児科開院、院長。著書『目覚めれば弥陀の懐　小児科医が語る親鸞の教え』（法蔵館）など多数。

行事予定（平成28年度）

6月中旬　本山差し向け布教
14、15日　西雲寺
16日　安田地区（お宿・末定育雄さん宅）
17日　本堂地区（お宿・池田敏雄さん宅）
布教使　新潟　梨本哲哉師

7月10　11日　永代経
布教使　野世信水師
11日はバスが3台出ます。
おときがふるまわれます。

10月17　18　19日　報恩講
布教使　日下賢城師
18日はバスが3台出ます。
おときがふるまわれます。

11月28　29　30日　御正忌報恩講
29日はおときがふるまわれます。
布教使　奥田順誓師

12月31日　除夜の鐘（どなたでもどうぞ）

1月1～3日　お年頭

3月　春分の日　世話方集会

どうぞお参り下さい

発　行
真宗仏光寺派 専念山 西雲寺（さいうんじ）
住職　護城一寿
筆頭総代　末定育雄
編集責任者　護城一哉
〒910-3523　福井市武周町５－２
電話　0776-97-2138
メール　kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ　http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！
お寺から郵送いたします。どうぞご遠慮なくお申し出下さい。

みなさんの声　大募集！
原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。